



くもりのくらし

くもりくらす、くもってくらし、くもらんとくらしさん。

象

鼻がおっぱいにはさまって抜けなくなった。象として一生の不覚だ。入ったのだから抜けるものだろうと思うのだが、返し針でもついているのかと思うくらいどうにも抜けない。このままでは相手方に迷惑がかかってしまう。しかし、はさまってしまったものはしょうがない。

サトウくん

むしゃくしゃしてサトウくんを投げた。川面で四回跳ねてから沈んだ。サトウくんは自力で泳いで帰ってくると、引き続き悩みを聞いてくれた。



隙間

ほんのわずかな隙間に顔の幅を合わせように入れるとすりと体ごと入っていった。

闇

真っ暗な中を歩いていると闇を踏んだ。

あっけらかん

あっけらかんは敵を寄せつけない。



さくらさん

さくらさんはべたべたするのが好きだ。べたべた、や、もちもち、が好きなのである。

ネズミ

ネズミはいつも話の重点の置き方を間違えた。

姿形

自分と姿形を異にしても同じ者がいるかと思うと、姿形が違わずとも本質的に別な者がいる。



光

どのような光であっても星ほどの距離まで遠のくと美しく見える。私が見ている光は過去の姿である。あの人が今放つ光を、私は知らない。

冬眠

寒いとついつい布団にはいってしまう、布団にはいるとついつい眠ってしまう。そうやって私は冬眠をむさぼる。

幸福

幸福がそっと寄って来た。そっとすぎて気がつかなかった。